

哲学教育ワークショップ 専門職教育に生きる哲学教育

寺田俊郎(上智大学)

哲学教育ワークショップでは、これまでさまざまなテーマに取り組み、哲学教育の可能性を拓く試みを続けてきた。高等学校における哲学教育に関するテーマがもっとも多く、次いで、小・中学校における哲学教育、そして市民社会における哲学対話に取り組み、今回は高等教育における哲学教育を、特に教養教育を中心として、取り上げた。今回は、専門職教育における哲学教育をテーマとして考えてみたい。

専門職教育における哲学教育と言えば、たとえば医療の専門職養成における生命倫理教育や科学技術の専門職養成における技術者倫理教育などが、まず思い浮かべられるであろう。今回のワークショップでは、そういった従来の専門職倫理の教育も含めるが、もう少し範囲を広げて、特定の専門職教育を受ける人々が、現場において生じるさまざまな問題をめぐって自ら考えることを促し、さらには自らの専門職について反省的に考え、理解を深めることを促す教育まで含めることにする。そのような意味での専門職教育に哲学はどのように寄与しうるのか、そのための方法としてどのようなものがありうるのか、考えたい。

まずは、特定の専門職教育において哲学(哲学教育)をさまざまな形で生かしてこられた三人の提題者に、それぞれの経験に即して話題を提供していただき、それをもとにフロアを交えた討論・対話に入る。ワークショップという場の特性を活かして、できるだけ多くの人々が対話・討論に参加し、共に考えられるようにしたい。そうして考えられたことは、今回言及されなかった専門職教育はもちろんのこと、社会教育や生涯教育などにも応用されうると期待している。

提題の概要は、以下の通りである。

ハンセン、フィン (Finn Hansen オールボー大学)

ハンセン氏は、デンマークの哲学研究者で、オールボー大学(Aalborg University)コミュニケーション学部に設置されている対話と組織研究センター(Center for Dialogue and Organization)で対話・哲学プラクティスの教授を務める。対話的現象学(dialogical phenomenology)という、現象学をベースとする対話的哲学実践を提唱し、それを看護教育などの専門職教育に活用する研究、実践、教育を行っている。氏は、北欧哲学プラクティス学会の会長も務めている。その経験に基づき、対話的現象学の概要とそれに基づく専門職教育についてお話しいただく予定である。

金光秀和 (Hidekazu Kanemitsu 金沢工業大学)

本提題では、技術者教育を例として職業教育において哲学の果たすべき、あるいは果たしうる役割について考察したい。特に、職業教育の要素として「専門職倫理教育」と「キャリア教育」を取り上げ、発表者が携わっている教育の実例を示しながら考察を進めたい。その考察において、専門職のあり方そのものを問うこと、および現代的な意味での読み書き、批判的思考などの論理の力の教育に貢献することを哲学に期

待される役割として提示する予定である。

榊原哲也 (Tetsuya Sakakibara 東京大学)

提題者は、これまで十年以上にわたって行ってきた看護学校の教員対象の「幹部教員養成」ないし「教務主任養成」のための講習会の「哲学」の講義、および医療者を対象とした現象学的看護論の勉強会での経験をもとに、看護の専門教育、職業教育に哲学がいかに関わりうるのか、哲学がいかにかきかされうるのかについて、できる限り具体例を示しつつ提題を行う予定である。また看護の専門教育、職業教育に哲学が関わることによって、そこから哲学が何を学びうるのかについても、経験に基づいた具体的な指摘を行う予定である。

なお、司会は、寺田俊郎 (Toshiro Terada) が務める。ハンセン氏の提題および質疑は英語で行われるが、何らかの形で日本語訳を用意する予定である。